

## 戦前における本間喜一先生によるフェンシング部創設

豊橋研究支援課 小林 倫幸

### 1. はじめに

東亜同文書院大学(上海)最後の学長で、戦後、愛知大学を実質的に設立した本間喜一先生が法政大学フェンシング部の創部、大日本フェンシング協会(現日本フェンシング協会)の設立、さらには1940(昭和15)年第12回オリンピック東京大会でフェンシングを大日本体育協会(現日本オリンピック委員会)<sup>1)</sup>と交渉し、競技種目とすることについて中心的役割を果たしたことはあまり知られていない。

今回愛知大学大学史資料の中から、フェンシングに関わる資料を紹介し、本間先生が日本のフェンシング界に大いに貢献したことを証明する。

### 2. 法政大学フェンシング部の創部

日本におけるフェンシングの始まりは、岩倉具視の曾孫である岩倉具清が、1935(昭和10)年、「同好の士を集めアルゼンチン大使モンテネグロ氏らの後援を得て日本フェンシング・クラブを設立」<sup>2)</sup>したことによる。

そして全国の大学の中でもいち早く1935(昭和10)年、法政大学はフェンシング部を創部し、日本の大学の中でも草分け的存在となった。この時期、本間先生は法政大学法学部教授(写真5)であったこともあり、法政大学OB渋谷忠三からの要請により協力した。翌年には慶應義塾大学が創部した。

ちなみに本間先生は、1915(大正4)年、東京帝国大学を卒業後、検事、判事を経て1920(大正9)年、東京高等商業学校教授(後の東京商科大学、現在の一橋大学)に就任、以後1936(昭和11)年まで在籍し、法政大学とこの時期重複していたことになる。

### 3. 大日本フェンシング協会(現日本フェンシング協会)設立

1936(昭和11)年、大日本フェンシング協会は設立されたが、これには次のようなエピソードがある。

「本間教授は協会設立に当たり、先輩であり(財)日本体育協会会長<sup>3)</sup>の末広厳太郎に協会設立の上、協会加盟の打診をしたところ、けんもほろろに断られてしまった。日本には剣道という日本古

<sup>1)</sup> 大日本体育協会が日本体育協会に名称変更し、さらにここから日本オリンピック委員会  
が独立して今日にいたる。(公益財団法人日本体育協会ホームページより)

<sup>2)</sup> 『ESCRIME』(日本フェンシング協会が刊行した昭和39年東京オリンピックの冊子)p.4

<sup>3)</sup> 1) に同じ

来の競技があり、ましてや軍部の圧迫等を考え合わせれば仕方のないことと時期を見ることとした。ところが、昭和11年ベルリンで開かれたオリンピック大会の総会で次期開催地が日本の東京で行われることが正式に決定した。この朗報に本間教授、児玉教授、渋谷忠三は驚喜喝采し、早速協会設立に取りかかる。」<sup>4)</sup>

また、『ESCRIME』(写真3)によると「子爵曾我佑邦氏を会長に大日本フェンシング協会が発足し、理事長本間喜一氏(現愛知大学総長)を中心に国際規約の翻訳などに努力し普及に力を注いだ」と記載されており、本間先生の功績が示されている。

#### 4. 他大学の状況

大日本フェンシング協会「発会式後フェンシングの熱は急速に広がり、随時増加していった。まず最初に東京帝国大学(本間喜一教授が自分の母校にも広める)の学生が有志を募り部設立に着手したのが手始めに、専修大学(法政大学でフェンシングを習得した者が専修大学に移り部を起す)、明治大学(昭和12年11月2日創部)、大阪YMCA、同志社大学、横浜YMCA、関西大学(昭和12年創部)、神戸YMCA、関西学院大学、東京YMCA(昭和13年創部)等、東西にまたがり続々と名乗りを上げ、同時に加盟の手続きをとる。」<sup>5)</sup>

#### 5. 第12回オリンピック東京大会の競技種目

1940(昭和15)年、東京でオリンピックの開催が決定していたが、当初、大日本体育協会<sup>6)</sup>はフェンシングを競技種目として認めなかった。その後、本間先生ら関係者の尽力により、競技種目にする事ができたが、これには次のようなエピソードがある。

「(財)日本体育協会<sup>7)</sup>はフェンシング競技の開催をせざるを得ない立場に立たされてしまった。それは欧州において最も古い伝統と華やかな歴史を持ち、かつオリンピックの主要競技に数えられ第一回から続いているフェンシングのためである。そこで末広巖太郎会長は急遽本間教授に面会を求め協会設立と加盟申請を早急にと頼みに来た」<sup>8)</sup>。

しかし、戦争の影響で残念ながら東京オリンピックは開催されなかった。(写真1)

#### 6. おわりに

現在、日本フェンシング協会は「47都道府県フェンシング協会と2連盟(全日本学生フェンシング連合、全国高等学校体育連盟フェンシング専門部)の49の支部により組織」<sup>9)</sup>されている。こうした環境によって、2008(平成20)年、第29回夏季オリンピック中国・北京で太田雄貴選手が日本人として初めて個人銀メダルを獲得、さらに2012(平成24)年、第30回夏季オリンピックイギリス・ロンドンで団体が銅メダルを獲得することができた。本間先生の初期の基盤づくりがようやく花開くこととなった。

---

4) 『法政大学体育会フェンシング部 The 70th 創部記念誌』 平成 17 年p.17

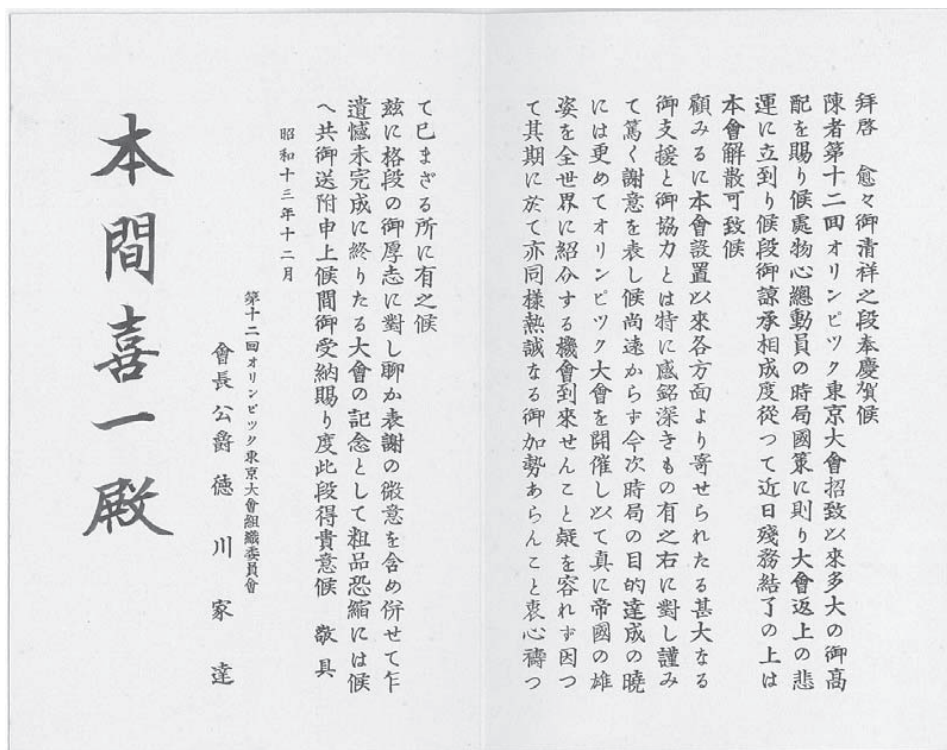
5) 『法政大学体育会フェンシング部 The 70th 創部記念誌』 平成 17 年p.18

6) 1) に同じ

7) 1) に同じ

8) 『法政大学体育会フェンシング部 The 70th 創部記念誌』 平成 17 年p.17

9) 公益社団法人日本フェンシング協会ホームページより



(写真1)第十二回オリンピック東京大会組織委員会からの礼状(昭和13年12月)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵

第12回オリンピック東京大会を開催(昭和15年開催)することができず、これまでの支援・協力に対するお礼状である。本間先生ら関係者が尽力し、フェンシングを第12回オリンピック東京大会での競技種目とした。



(写真2)フェンシングレプリカ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵・展示中

これまでの本間先生の功績により、日本フェンシング協会から昭和39年の東京オリンピック開催の際、感謝状、メダルと共にいただいたものである。

第18回オリンピック東京大会  
JEUX DE LA XVIII OLYMPIADE



# ESCRIME

---

日本フェンシング協会

---

(写真3)オリンピックフェンシングの冊子(昭和39年オリンピック東京大会)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵

ESCRIMEとはフェンシングという意味で、フランス語。

この冊子の中で、「子爵曾我佑邦氏を会長に大日本フェンシング協会が発足し、理事長本間喜一氏(現愛知大学総長)を中心に国際規約の翻訳などに努力し普及に力を注いだ」、またフェンシングは「1896年第1回アテネから第18回東京まで中断される事なく連続開催されている競技の名門」とあるとの記載がある。



委嘱 No. 009



# 委 嘱 状

本間喜一郎 殿

貴殿を第22回国民体育大会  
秋季大会 フェンシング 競技  
会 顧 向 に委嘱します

昭和42年9月1日

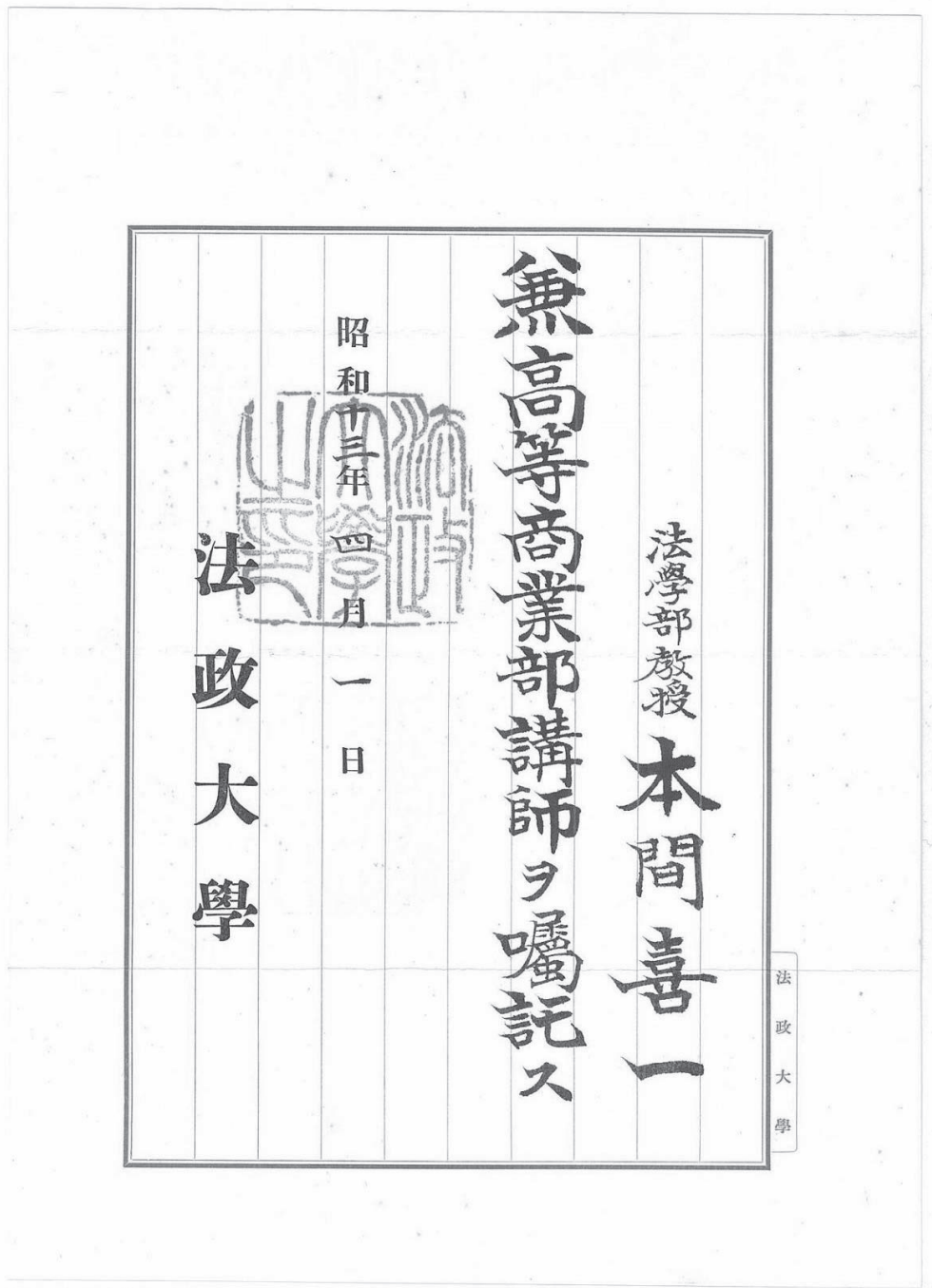
第22回国民体育大会

会長 石井光次郎



(写真4) 第22回国民体育大会フェンシング競技会顧問委嘱状  
愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵

本間先生がフェンシングと深い関わりを示す資料。



(写真5)法政大学嘱託状(昭和13年4月1日付)

愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵

この資料の中で肩書が「法学部教授」となっていることについて、法政大学人事課に問い合わせたところ、「教員人免簿」という書類が保管されており、昭和8年2月20日付で法政大学法学部教授を委嘱されていることが判明した。

ちなみにこの時期は、昭和9年から昭和11年まで東京商科大学教授(現一橋大学)であった。